

文化振興ビジョンを推進するための懇話会 第5回会議概要

1 日 時：平成27年2月18日（水） 15：00～17：30

2 場 所：清閑亭

3 出席者

(1) 委員（8名）

水田座長、鬼木副座長（途中参加）、石田委員、小川委員、神馬委員、露木委員、深野委員、牛山委員

(2) 行政（7名）

加藤市長（途中参加）、安藤文化部副部長、中津川文化政策課長、砂川専門監、諏訪部文化政策係長、高瀬芸術文化創造係長、酒井主査、大木主査

4 傍聴者 0名

5 会議の概要

(1) 文化部副部長あいさつ

- ・今年度は第3回会議から、文化振興のための条例制定に向けた議論となった。
- ・来年度には、条例制定に向けた検討をしていただく新たな附属機関を設置する。
- ・3年間続いたこの懇話会は、本年度で終了とさせていただき、懇話会でいただいた意見を新しい附属機関に引継ぎ、それを土台に条例制定に向けた議論をしていただく。
- ・芸術文化創造センターについては、建設費が当初の予定より上がり、また工期についても当初より半年ほど伸ばして建設するとなった。
- ・本日もこれから議題となっている「文化振興のための条例の必要性について」議論していただくが、これまでと同様忌憚のない意見をいただき、今後の条例制定にむけた議論に繋げていきたい。

(2) 第4回会議の振り返り

第4回会議の振り返りとして、事務局から説明。

(3) 報告事項

ア 芸術文化創造センターについて

事務局から報告

- ・市内の小学校等でアウトリーチ事業を行っている実績等も踏まえ、運営組織は直営で行うことに決定した。

- ・現在の市民会館の場合、収支状況や利用率等がわかっているため指定管理者制度を導入するのは容易だが、センターの場合、まったく新しいもののため、収支状況、利用率等がわからない状況の中で、指定管理者制度を導入するのは難しい。
- ・5年間は直営で行い、その間、次の段階として、民間の指定管理者にするのか、直営にするのか、あるいは財団を設立するのかを検討していくが、文化部としては、財団設立の方向で進みたい。
- ・社会包摂という考え方でないと、センターに巨額の費用を投入する意味はない。また社会的諸課題が解決される場でなければならない。そのためには、運営組織は、市民との協働、教育・福祉の分野と連携しやすいものでなければならない。
- ・その連携しやすい組織は絶対に必要なものであり、そのルールを3、4年かけ直営で作っておけば、その後、どんな組織が運営するようになると当初の理念を果たす施設に成り得るはずである。
- ・工期については、当初、19～20ヶ月であったものを24ヶ月に変更するが、平成29年の秋のオープンには間に合わせる。
- ・実施設計の履行期間についても2ヶ月延長した。
- ・金額は73億円程度である。

【文化部副部長】

- ・財団については、センターを運営するだけの財団では説得力がないので、小田原の文化を振興する財団で、その中にセンターの運営があるというストーリーにもって行きたい。

【水田氏】

- ・小学校で行っているアウトリーチは、どのようなプログラムなのか。

【事務局】

- ・主に音楽や美術、長唄三味線、バレエ等体験を含めたもので、時間は45分くらいである。

【水田氏】

- ・施設を作る前から、そのような事業を行っているのはすばらしい。

【文化政策課長】

- ・ソフト面を睨んで、芸術文化創造担当課長をはじめとしたアートマネジメント専門とする人材を先に確保したのは画期的だと思っている。

【水田氏】

- ・小学校でアウトリーチを行うと、子どもたちは保護者に話しをするので普及度は高いのではないか。

【文化政策課長】

- ・PTAにも通知をしている。

【事務局】

- ・山王小学校で行った長唄三味線のときは保護者が20人程度来た。

【文化政策課長】

- ・アウトリーチは、一流の方がコンパクトに45分にまとめたものなのでとても面白い。
- ・業界の方が育成のためにと安価でやってくれる。

【文化政策課専門監】

- ・長唄協会も育成に力を入れている部門がある。

【深野氏】

- ・杵屋響泉さんが小田原にいらっしゃることは、大きな力になる。

【石田氏】

- ・単独で何かをしようとするのは金銭的にも大変だが、国の資金を導入するとか、人の力を借りるとか、若干、虫のいい話もあってもいいのではないかと思う。
- ・このようなことは、意外といろいろなところに転がっているので、情報を共有しながら、今後、小田原のために、子どもたちのためになる戦略を練っていけるのではないかと思う。

【小川氏】

- ・横浜市では、学校に芸術家が出かけていき、アウトリーチを行っていることは、文化のセクションの中の一事業としてだけの取り上げられ方になってしまう。
- ・教育の分野や、「子育てしやすいまち」という枠の中で、文化もこれだけ活かしているという風になると良い。

【水田氏】

- ・福祉部門や教育部門で協力をしてもらいながら事業をしていけば、橋渡しのきっかけになる。

【事務局】

- ・神奈川芸術劇場の事業で、牛山さんが理事を務めているアール・ド・ヴィーヴルという障がい者アートの活動をしている方を対象のダンスのワークショップを行った。また、養護学校へのアウトリーチも行った。

【牛山氏】

- ・ダンスのワークショップは大変感謝している。参加した方も楽しかったとっている。また、そういうことができるということを知ったのも重要なことである。

【神馬氏】

- ・たくさんの活動やイベントあるが、内容ではなく参加費の額で参加する、しないを決めてしまう人がいる。活動内容、イベント内容の全体を網羅した情報を提供出来るような媒体がほしい。

【牛山氏】

- ・先日、映画の上映会を行った際、「どこでこの情報を知ったか」とたずねたところ、ポスター・チラシが一番多かった。Webでも情報を流したが、HaRuNeや公共施設にポスターを貼ってもらったこともあるかもしれないが、やはり紙媒体の力は偉大である。

【小川氏】

- ・センターの直営に関してだが、職員の勤務体制や物販の問題など課題があると思うが、その課題の整理はこれからなのか。それとも、ある程度目途がついているのか。

【事務局】

- ・例えば、年度主義のため予算が決まらなると事業ができない、年度当初には事業がなく、年度末に増えてしまうことや、公平性を考えてしまうため、広報誌に載せる記事には主張のようなものが書けない等、いろいろな課題がある。
- ・それらを踏まえつつ、現実的に経理的な面や、当初の走り出しの部分を実確にという意味で直営をとった。デメリットのあることは承知しているが、うまく対応していくつもりである。

【文化政策課長】

- ・市民の方からの使い難さ、直営館のほうがサービスが悪いとか、そのような心配は確かにある。
- ・直営とは言っても、現在の市民会館も窓口業務は委託で行っている。センターに関しても窓口業務は委託になる可能性があり、そこが一番心配なところである。
- ・直営という面では同じ流れになるが、サービスの面ではガラッと変わるものでなければ市民にも受け入れ難いだろう。今の市民会館と同じでは許されないだろうという認識はある。

【小川氏】

- ・芸術の中の表現の自由に関する問題は各地で起こっていて、直営館であるとその問題が直撃してしまうであろう。
- ・作品内容の自由を担保するために、芸術性の判断ができるような行政外部の運営委員会の設置などを検討することも必要だろう。センターに関しては、この点に関して何か方向性が見えているのか。

【事務局】

- ・現在は休止状態にあるが、市民会館運営委員会という組織があり、そこで自主事業の判断や、運営ルールの判断をしてきた経過がある。同様な組織が必要であると考えている。

【文化政策課長】

- ・次の報告事項である「文化振興ビジョンの推進について」になるが、文化振興ビジョン推進委員会という附属機関を設置し、その中で検討されるであろうし、いずれそこが母体になる外部評価委員会のようなものになるかもしれないし、そこで検討

して別に組織を作るかもしれない。いずれにせよ、そのような組織は作らなければいけないと考えている。

【水田氏】

・外部評価と運営組織は違うと思うが。

【文化部副部長】

・そこは、まだわからない。別々の組織でやっていくこともあるだろうし、場合によってはその組織でやってしまうこともあるかもしれない。まだ具体的なイメージは持っていない。

【水田氏】

・どうやって設置するか、メンバーをどうするかは相当重要なことである。

・市民会館運営委員会が休止となった経緯は。

【事務局】

・直接的にはお金の部分である。

・ふるさと文化基金をもとに、自主事業をやってきたが、その基金の利率が少なくなってきたことから、その自主事業をやらなくなった経過があるため休止している。

イ 文化振興ビジョンの推進について

事務局から報告

- ・この懇話会については、今年度この会を最後に、いったんの区切りをつけさせていただく。
- ・来年度からは、条例だけに特化した諮問機関ではなく文化振興のための諮問機関として文化振興ビジョン推進委員会を設置する。
- ・この推進委員会では、まず2年間は条例について検討していただく。その後は、先ほどの外部評価のようなものをこの中でやるとなれば分科会のようなものを作るとか、もっと先にいけば、文化審議会のような形になるのが理想である。
- ・文化活動応援補助金のようなものを作った場合、それを判断していただく機関にもなってもらいたいと考えている。

(4) 文化振興のための条例の必要性について

資料4に基づき、条例の名称を考える手がかりについて石田氏から説明。

【石田氏】

・文化振興条例を作る4つの意味は

理念の明確化。文化振興、芸術文化振興、あるいはまちづくりを市として市民とどう考えていくかという理念の明確化。

文化活動支援の措置の根拠。

文化計画策定の根拠。文化ビジョン、あるいは文化条例といった理念から、もっと具体的なアクションプランを作っていくための根拠となすもの。

審議会をつくるかどうか。審議会の設置に言及するのであれば、それを設置する根拠となすもの。また、住民参加の根拠の付与。

である。

- ・条例を作るのは、わかりにくく、ぼんやりしたものかもしれないが、その先には、かなり具体的なものがあるということメンバーの皆さんと共有したい。

【水田氏】

- ・条例の名称に関して、前回、仮称を作るような話があったが、今の段階で方向性が整理されているならば、話していただきたい。

【事務局】

- ・先に、文化政策課長が話したとおり、「文化振興ビジョン推進委員会」を設置することとなり、「(仮称)文化条例検討委員会」という名称ではなくなった。
- ・そのため、今すぐ、ここで名称を決める必要性はなくなった。
- ・ただ、資料3には、皆さんから宿題として提出していただいた名称案がある。また提出が間に合わなくて、空欄になっている方も考えてきていただいているようなので、せっかくなので発表していただきたい。

【露木氏】

- ・具体的な分かりやすさを入れたほうが良いのではないかと思いつつも、こういう条例があって文化というものが発展したり、人々の心に残っても良いのではないかという思いから「小田原文化の宝箱」というのを考えた。

【石田氏】

- ・ひらがなで書くのか。

【露木氏】

- ・漢字で書いてみたが、石田さんの話を聞いて、ひらがなでも分かりやすいし、やわらかくなって面白いと思った。
- ・「小田原文化の宝箱」があることによって、人々の暮らしが良くなったり、文化が楽しめたりという核になれば良い。

【深野氏】

- ・名称を考えるのは非常に難しい。言いたいことがたくさんある。
- ・小田原にこだわりすぎている。もっと西に目を向けるべきではないか。文化という切り口で、広がりというものをもっと考えたい。
- ・何かイベントを行っても、小田原からしか人が来ない状況である。秦野や平塚からも人が来ないという広がりやなさが小田原の課題なのではないか。
- ・もう一つは、高齢化が問題であるのだから、とにかく若い人に集まってもらわないと困る。若い人が住みやすい、若い夫婦が子育てしやすいという切り口が、文化の果た

す役割のひとつになるのではないか。

- ・これをきっかけに小田原市が新しくなっていく、今までとは違うというものになれば良い。
- ・小田原というと、すぐに歴史となる。それはある程度は必要なものではあるが、それで終わってしまっているのではないか。それを突き抜けるものがない。
- ・そのためにも「広がる」と「新しい」という言葉を使いたい。

【牛山氏】

- ・何に使うのか、どんなときに参照するのかを考えたときに、あまりイメージが限定されないものが良いと思った。例えば、活動していくのに条例を参照して何かを計画していくとかがあると思う。
- ・名称は、何かあったら参照しようとするすぐ思いつくシンプルで覚えやすいものが良いと思ひ、「小田原文化条例」とか「新しい小田原文化条例」が浮かんだが、「新しい」とすると、いつ作ったものをいつまでのような賞味期限があるだろうから、不用意に「新しい」は使えないと思った。
- ・意味合いとしては、新しく出てきたと思えるような新鮮な言葉であれば望ましいと思ひったが、「新鮮」にも賞味期限がある。

【深野氏】

- ・形容詞ではなく、動詞にするのが良い。「新しい」は「新しくする」にすれば常に動いている状態になる。

【牛山氏】

- ・「小田原を生きる私たちの文化条例」とか。条例というと堅苦しいが、条例をはずしてしまうと、参照するべきか、するべきでないかというのがピンと来ない気がする。
- ・条例という言葉は拘束力があつたり、それを守れば判子が押されたりというイメージがあるので、「条例」ではなく「お約束」などにしてしまうと、そこがぶれてしまうと思う。
- ・どこに照準をあてるかによって、どの言葉を使うのか決まってくる。「宝箱」はすごく新鮮だと思ひったが、それをを使う場所がどういうところなのか考えたほうが良い。

【鬼木氏】

- ・名称を考えるのは、中身を考えるのと一緒でなければいけないとしみじみ感じた。
- ・私が提案した名称案の中で一押しが「市民がつくる小田原文化条例」である。市民の皆さんが前面に出るような、前に進むという感じにした。

【牛山氏】

- ・「つくる」は「小田原文化」にかかるのか、「小田原文化条例」にかかるのか。

【水田氏】

- ・条例そのものもみんなで作っていきましようみたいに、二重にかかっている感じもする。

【鬼木氏】

- ・仮称で使うならば、そういう意味もあったかもしれない。

【深野氏】

- ・家訓というものがあるが、それは何かと考えると、この家で生きるものは、こういう風に生きなさいというような生き方を示しているのではないかと思う。
- ・文化条例というと硬いが、小田原市民訓みたいに「小田原市民たる者、こういうふう生きよう」のような捉え方もできるのかなと思う。

【水田氏】

- ・名称については、それぞれ思うところを発表してもらったので、石田さんから説明いただいたことについての意見をお願いします。

【鬼木氏】

- ・「文化」は広い意味で取ったほうが良い。文化は生活に密着しているというところから考えたい。市民の皆さんが生活のため文化を感じているところからこれがスタートしているということが条例の中に盛り込まれると良い。
- ・そうすることによって、いわゆる芸術の世界は遠い世界ではなく繋がっていると実感できるのが理想的である。

【石田氏】

- ・「文化」とするのか「文化芸術」まで踏み込むのか、その辺りは話し合っても良いと思う。「芸術」というと、また少し違う要素が入ってくる。あるいは、限定されたことも若干入ってくる。「芸術文化」と言わないにしても、「文化」と「文化芸術」は違う。

【牛山氏】

- ・生活と文化と芸術は、全部ひとつながりであってほしい。全部、相互関係があり、どれか一つだけでは意味がない。

【小川氏】

- ・私の仕事場の若いスタッフに、小田原で新しい条例を作るとしたらどんな名称案がいいか尋ねたところ、「ハッピー条例」はどうかと返答があった。
- ・神馬さんの案の中にも「しあわせ」というキーワードが使われている。文化も芸術も生活もみんなが幸せになるためにやっているもので、幸せにならないようなものならばやめてしまえばいい。
- ・市のすべての事業は、人々の幸福のためにやっていると思うが、その中で文化がどのようなことができるのかという視点が原点になっても良いと思う。

【石田氏】

- ・小田原らしさをどう出すか。外から来た人間としては、いろいろなものが詰まっているのが小田原だと思っていて、また、そのいろいろなものがいろいろ過ぎてわからなくなっているのも小田原だと思っている。小田原らしさを盛り込んだら面白い。

【牛山氏】

- ・小田原に転入してきて者として、小田原市民と言われると嬉しい。小田原で暮らす人はみんなこれに関係あると感じられるといい。

【文化政策課長】

- ・横浜の人を「はまっこ」と呼ぶようなものが、小田原にもあればいいのが、まずない。小田原らしさを出す条例とするのならば、内容で小田原らしさが出ればいいのかと思う。

【深野氏】

- ・小田原はなんでもできる豊かな土地である。人も豊か、土地も豊か、気候も豊かというところが小田原らしさなのかもしれない。

【露木氏】

- ・前向きとか、いい物がたくさんあるから「宝箱」にした。ただ、いい物があり過ぎて、わかりづらいのが欠点でもある。

【文化政策課長】

- ・名称の中に「宝箱」とかが入らなくても、前文の中に入れて、愛称で「小田原の宝箱条例」と言ってもらえればよいと思った。

【深野氏】

- ・前文で気持ちを伝えたい。条文だけだと伝わるものも伝わらないと思う。

【水田氏】

- ・最初に石田さんが言った、条例を作る4つの根拠のうちの理念の明確化については、前文と最初の目的のところを2つ組み合わせさせた形で表現されるものである。

【石田氏】

- ・名前もセットである。前文でどこまで小田原の文化に携わる人たちに気概を見せるかということと目的ではっきり書くということである。

【水田氏】

- ・市民活動への支援の根拠と計画策定の根拠、審議会設置の根拠は、これは基本的に盛り込むという考え方でよいか。普通、計画策定の根拠は入れる。条例には抽象的なことしか入れないので、これを具体化するために何ヵ年計画をつくるものとするというようなことは必ず入れる。

【石田氏】

- ・それを根拠に、アクションプランをつくっていくというのが大きな流れである。
- ・条例に細かく書き込んでしまうと、踏み込みすぎてしまい、そこをやらなければいけなくなってしまい、ほかの事業ができなくなってしまふ。

【水田氏】

- ・市民に愛してもらうためには、この条例を根拠に、自分たちの活動をサポートしてもらえんということがわかってもらうため、役所はみんなの活動を支援するということ

が書いてあることが重要である。

【石田氏】

- ・住民参加の手がかりになるようなことが入っているほうが、お互いに良い。

【水田氏】

- ・審議会はどうか。

【文化部副部長】

- ・文化振興をきちんと実施しているのかチェックしてもらの意味で、審議会という名称でいいのかは別として、何らかのチェック機関があったほうが良い。それを条例に謳いこむことが大事である。

【水田氏】

- ・外部組織が位置付けられていないと、意見を言っても、何の根拠があってそれを聞かなければならないのかという話になってしまうため、条例にあったほうが望ましい。

【鬼木氏】

- ・文化活動の支援について書いてあるとか、市民の参画について書いてあるとか、市民の皆さんにとって、自分が参加できる、関わるといのが読んでいくうちに分かっていく中身であれば、意義のある条例になる。

【深野氏】

- ・社会包摂という考え方は、文化の中ですごく大事である。ただ、社会包摂という言葉は、条例を読んでもわからない言葉だろうから、噛み砕いた言葉がうまく言えればよい。

【牛山氏】

- ・具体的な言葉を使っても良いと思う。障がいがある人とか、どんな社会的な立場にあっても等しくというような具体的に書いていくのがよい。

【深野氏】

- ・等しく幸せになる。包摂だと少し上から目線の感じがする。

【石田氏】

- ・範囲をどこまで限定するかに戻るが、文化というものの中には生活も含め、民族的なものや伝統的建造物群などいろいろなものがあるので、広く捉えたほうが今後の文化活動に資すると考える。
- ・資料に「広 狭」と書いてあるように、「文化」の下が「文化芸術」、さらに深いジャンル分けになっているこの中を全部包括する言葉としての文化という捉え方で考えていきたい。
- ・それが、露木さんが言う「宝箱」という非常に素敵な表現に繋がるのではないか。
- ・小田原市民ではない外から来た者にとって、小田原は「宝箱」である。いろいろなものがギュッと詰まっていて、それを自分たちで楽しんでいる。ただ、それを外に発信するのは少し苦手かもしれないと、この3年間で感じた。

- ・「こんな素敵なお宝箱を持っている」というのを見せる手がかりとしての条例の位置付けは意義がある。

【深野氏】

- ・小田原市民という言葉はあまりに一般的過ぎて像が浮かばない。

【石田氏】

- ・「小田原で暮らすわたしたち」のように平たい言い方にすればよい。

【鬼木氏】

- ・主体のところだが、市民の皆さん、暮らす人々のことについて書くのがメインで良いのだが、条例は市役所の側に対する縛り、市の側の責務を規定していくことも含まれていく必要がある。

- ・市の側と市民の側の両方に関わる物が含まれている内容になってくるのではないか。

【文化政策課長】

- ・本日欠席している間瀬さんがよく言っているが、首長が変わった場合に文化活動を担保するものが条例である。それだけ行政も覚悟を持って作るべきである。

【水田氏】

- ・先ほどの文化条例を作る意味の2つ目である市民活動への支援の根拠は、言ってみれば役所を義務付けるものである。

【牛山氏】

- ・ここに書いてあるからアウトリーチは絶対にやめないとか。

【石田氏】

- ・アウトリーチという言葉が良いのか、もっと市民に繋がる事業とするのか、具体性をどこまで持たせるかも手腕が必要で、行政側にどこまで確保してもらうかもそうだが、いろいろな文化芸術のあり方が、これから20年、30年変わっても、これで手当てできるというぐらいの幅を持たせるのがコツだと思う。

- ・具体的な事業、方法を書くと、それしかできなくなってしまう恐れがあるので、そこもこれから考えていくポイントである。

- ・文化活動支援の措置について、市民の文化活動をどこまでこの中で読み込むのかは議論のあるところで、どこまで市が責任を持つのかも話し合っていかなければいけない。

【深野氏】

- ・小田原市の条例なので小田原にこだわるのは当たり前なのだが、広がりを考えたい。隣の市民も小田原文化と一緒に楽しもうというのがあっても良いと思う。

- ・時間的な広がり、つまり今の市民だけでなく未来の市民。赤ちゃん、小田原に移住したいと思っている未来の市民に、こんなに良い文化があるし、こんなに良い文化を作ろうとしているから小田原に来て一緒に作りませんかのような広がりがほしい。

- ・小田原市民と言ってしまうと、今までどおりになってしまう。今でも小田原市民で一生懸命やっているのではないかという話になってしまう。そこに小田原の限界をすごく

感じてしまう。

- ・もっと地域的な、空間的な、時間的な広がりを持たせたい。それは文化だからできることである。
- ・小田原に来て面白かったという通りがかりの市民、一時市民まで広がりを持たせれば世界的な小田原市になるのではないか。

【鬼木氏】

- ・市民だけでなく、文化も未来。現在のものを未来に残してくという時間軸を中に盛り込んでおく。現在のわれわれの責務として、将来へ文化を繋いでいく。今が良ければいいというわけではないという視点が必要である。

【水田氏】

- ・伝統文化の大切さの裏返しみたいなものである。
- ・資料2のスケジュールを見ると、来年度に設置する推進委員会は公募市民委員が入れるようなので、市民参加の大きな手法となると思うが、前回、こういった形で市民参加をしていくか議論したが、その辺りはいかがか。

【事務局】

- ・具体的には決まってないが、積極的に団体の集まりに出かけて行くとか、カフェ形式のような形で話しにいくとか、そのようなことを考えていくのではないか。
- ・内容ではなく、考え方を広めていくことが重要だと思っている。

【神馬氏】

- ・いろいろな年代の方からいただいたほうが良いが、大体このような場に出てくる人は限られてしまう。出て来られない人から意見をいただく方法だとか、あらゆる場面を想定したほうが良い。デイサービスに行ってみるとか。

【深野氏】

- ・出てくる人は限られている。いくらそのようなことをやっても、同じ人に同じような話を繰り返しているだけの気もする。
- ・一方で、広報という意味で充実しているかという点と足りないと思う。センターのようなハード面の話はみんな興味があるのでタウン誌などで取り上げられるが、ソフト面になるとあまり載らないので、積極的に活用して、こんな考えで文化を推進しているなどを定期的に入れていくのも必要なのではないか。
- ・自治会経由で何か配るのも良いかもしれない。紙媒体のものはみんな見ている。

【鬼木氏】

- ・どこの自治体も、行政のそういうところを市民の皆さんに伝えることは難しい。広報手段を使ってもなかなか届いていないことがある。
- ・一方で、必ずしも何か広報をして反応がないからといって伝わってないとは限らない。意外と知られていたりする。手数を惜しまずやることに尽きる。
- ・記事を書いてくれるところには情報を出す。話をしてもいいというところに、文化と

は関係なくても話しにいくとか、地道にやるしかない。

【露木氏】

- ・地道なことをつなげないと大きくなならない。鬼木さんの言うとおりである。些細なことでも出し続けるしかない。

【小川氏】

- ・どういう人に届けるのかということと、誰のために、社会包摂という言葉が何のためにあるのかを考えた場合、「働いている人」、「青少年」、「若者」、「高齢者」と名前がついている人はルートがあるのだから、専門家と協議すればいい。
- ・そこからこぼれた、その他の人たちをどうするかという考え方が社会包摂である。この条例も、その業界、例えば青少年課にお願いすれば届くのではなく、そうでない人たちの思いを見つけなければならない。
- ・少し前には「ニート」という言葉の存在はなかったらうし、条例を作っていくときに未来を考えたら、私たちが想像もしなかったような層が小田原の中でできてくるであらうし、そこに向けて届けたいと思う。

(5) 市長あいさつ

- ・この会議が、皆さんにとっても、価値ある交流になったのではないかと思う。
- ・文化については、芸術文化創造センターをめぐるいろいろな議論があった中で、にわか小田原の中でクローズアップされた。もとより、長い歴史の中で小田原には多くの活動があるが、文化とは何かという議論をすることになったのは、今回のハードの建て直しがきっかけである。
- ・文化の捉え方自体が、非常に領域が広く、どこに焦点を絞って議論するのかによっても、相当議論の立て方が変わってくる。
- ・文化そのものの定義は、極めて抽象的で、豊かさとか、恩恵とか、効果とか、私たちの暮らしの中で享受する機会の多い人は少ないのではないか、意識をすることは少ないのではないかと思う。そういった意味で、このテーマは難しい。
- ・何か実感を得られる活動とセットにして伝えていくこと、実体が伴う活動を媒体として伝えていくことをしないと、言葉だけでは平たい優しい言葉になってしまうので、その辺の組み立て方が大切である。
- ・文化活動をすることによって創造していくという作業が、いかにこれからの地域課題を乗り越えていく上で力の獲得につながっていくのかということ、私も認識を深めてきた。
- ・いろいろな課題を解決していくために、文化を創造していく営み自体が極めて重要なことであるということが抽出されてきている。そのことを条例でわかりやすく伝えることは、技術的に工夫のいるところだと考えている。
- ・このメンバーで会議をするのは、これで最後と伺っているが、ぜひ、次年度に向けて、

良い形でこの作業を引き継いでもらい、皆様におかれましては、それぞれの分野でPRもこめて活動していただきたい。